



Prevalence of non-communicable diseases among healthy male decontamination workers after the Fukushima nuclear disaster in Japan: an observational study

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-05-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 澤野, 豊明 メールアドレス: 所属:
URL	https://fmu.repo.nii.ac.jp/records/2000392

論文内容要旨

氏名 しめい	さわの とよあき 澤野 豊明
学位論文題名	Prevalence of non-communicable diseases among healthy male decontamination workers after the Fukushima nuclear disaster in Japan: an observational study (福島原子力発電所事故後の一般男性除染作業員における生活習慣病の有病率：観察研究)
労働衛生および労働安全の領域において現在、弱者の健康を管理し維持・保護することは公衆衛生医学上の重要な課題である。福島第一原子力発電所事故後には、事故によって放出された放射能の影響を軽減するため、除染作業が実施された。除染作業員には、県外から流入したいわゆる多くの出稼ぎ労働者がその作業に従事した事が知られている。以前の我々の研究では、入院した除染作業員の生活習慣病の有病率、およびその未治療の割合が高いことが示されている。その一方で、そういった社会的に弱い背景をもつ除染作業員の健康状態については、いまだ十分な評価がされていない状況にあった。本研究では、入院した状態ではない、一般の除染作業員における生活習慣病の有病率を評価することを目的とした。 方法は以下の通りである。本観察研究では、2016年に福島県南相馬市で除染作業員を対象とした健康増進プログラムの一環として、生活習慣や社会的要因に関する質問票を実施した。質問票および健康診断から抽出した高血圧、脂質異常症、糖尿病ならびに肥満の有病率を、2016年に実施された国民健康栄養調査を1985年モデルで年齢調整を行なった結果と比較した。 本研究には、合計123人の男性除染作業員が登録され、93人(75.6%)が飲酒者で、84人(68.3%)が現喫煙者であった。高血圧、脂質異常症、糖尿病、肥満の年齢調整後の有病率(95%	

信頼区間) は、それぞれ 27.2% (20.1-34.4%)、30.4% (22.6-38.2%)、11.3% (5.5-17.1%)、49.0% (39.0-58.9%) であった。2016 年の国民健康栄養調査における年齢調整後の有病率は、それぞれ 32.8% (31.1~34.5%)、16.1% (14.5~17.6%)、7.0% (6.2~7.7%)、31.2% (29.9~32.5%) であった。

結論としては 一般の非入院の男性除染作業員では、肥満、脂質異常症、飲酒、喫煙の有病率が一般の人に比べて高かった。本研究は介入研究ではないため、除染作業員が被災地に流入したことに関連して健康状態を悪化させたかどうかを評価することはできないが、一般的に除染作業員は、元々の健康状態に起因して、生活習慣病の有病率が高い可能性がある。除染作業員の健康状態を継続的にモニタリングし、適切な介入を行うことが望まれる。

※日本語で記載すること。1200字以内にまとめること。

学位論文審査結果報告書

令和4年2月14日

大学院医学研究科長様

下記のとおり学位論文の審査を終了したので報告いたします。

【審査結果要旨】

氏名 澤野豊明

学位論文題名 Prevalence of non-communicable diseases among healthy male
decontamination workers after the Fukushima nuclear disaster in
Japan: an observational study

(福島原子力発電所事故後の一般男性除染作業員における生活習慣病の有
病率：観察研究)

本研究は、2011年に福島県において発生した地震及び原発事故による複合災害で環境中に広がった放射性物質の除染作業に従事した男性労働者における生活習慣病の実態を明らかにしようとしたものである。対象は、福島県南相馬市の除染作業員123名で、2016年に実施した質問票による調査と健康診断結果をもとに解析が行われた。

日本の一般成人男性と比較し、肥満、脂質異常症の有病率、並びに飲酒者、喫煙者の割合が高く、健康や生活習慣に問題のある者が多いことを明らかにした。本研究の対象者の社会的背景が比較的良いにもかかわらず生活習慣病の有病率が高かったことから、除染作業員では、社会的背景のみならず、食生活を含む生活習慣の選択が一般の人々に比べ不得意なために、生活習慣病の発症につながっているのではないかと考察している。

審査会において、特に対象者集団の属性や Socio-economic status の扱いに関して、また、除染作業員の高い生活習慣病有病率の原因等について質疑応答が行われ、質問に対する確かな応答がなされた。審査会での質疑応答の内容、またコメントや修正の指示に対して、別紙の通り文書で回答があり、適切に修正が行われたことを確認した。

選択バイアスの可能性などいくつかの限界はあるが、福島第一原子力発電所事故後の除染作業員の健康実態を明らかにした研究であり、世界に発信する価値ある論文と考え、学位に値すると判断した。

論文審査委員 主査 福島 哲仁
副査 田巻 倫明
副査 中里 和彦